

《履修上の留意事項》・ 指定教科書および実習ファイル、リンクノートを必ず持参すること。
 ・ 診療現場では身だしなみを整え、私語を慎み、節度ある態度をとること。
 ・ 大学病院における実習は外来手術室と手術室における見学が中心である。睡眠と朝食を取り、体調を整えて臨むこと。

《担当者名》○教授／照光 真 terumitsu@ 講師／吉本 裕代 koseki@ 助教／大桶 華子 hanatty@
 助教／藤田 尚正 nfujita@

【概 要】

第4学年の歯科麻酔学系統講義で学修した内容が、実際の臨床の現場でどのように生かされているのかを学ぶ。麻酔管理計画を立てる。患者におけるバイタルサイン測定を行う。見学症例をレポート、考察し、口頭試問を受ける。

【学修目標】

バイタルサインの測定方法を説明する。
 患者におけるバイタルサイン測定を実施する。
 麻酔管理にリスクとなる問題点を評価する。
 全身麻酔と鎮静法の方法について説明する。
 局所麻酔の方法について説明する。
 一次救急救命の方法を実施する。
 二次救急救命の方法について説明する。
 疼痛性疾患および麻痺性疾患に対する診断と治療法を説明する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
全実習 期間	総合	臨床実習の進め方や諸注意、大学病院の手術室フロアなどについての全般的な説明をうける。	照光 真 吉本 裕代 大桶 華子 藤田 尚正
	(シミュレーションおよび相互実習) 1. 局所麻酔法 2. バイタルサイン 3. 生体情報モニターの取扱い 4. 一次および二次救命処置	- 歯科領域の表面麻酔法、浸潤麻酔法、伝達麻酔法について、方法・使用薬剤・器材・注意点・合併症への対応について理解する。専用のシミュレーターを用いて浸潤麻酔(粘膜下注射・骨膜下注射)および下顎孔伝達麻酔の手技を実践する。 - 針刺し事故への対処法を説明できる。 F-3-1) - 、F-1-2) - ~ - 一般診察方法とバイタルサインについて理解する。患者への問診の仕方とバイタルサインの測定手技を習得し、正常/異常の判断およびその説明ができる。 F-2-2) - 、F-2-1) - ~ 、F-1-2) - - 生体情報モニタの使用法および得られた測定値や波形(心電図、心拍数、経皮的酸素飽和度、血圧、体温)について説ける F-2-2) - 、F-1-2) - - 歯科患者の急変に対する救急救命処置について説明できる。AHAガイドライン2020を基本とした1次及び2次救命処置について学び、アルゴリズムが説明できる。 - 以下の各手技をシミュレーション実習で習得する：胸骨圧迫と人工呼吸、自動体外式徐細動器の使用、気道確保(エアウェイ、気管挿管、声門上器具、緊急気道確保)、点滴注射(静脈路確保)と救急薬剤の投薬、窒息・誤嚥への対応 F-1-2) - 、F-1-2) -	照光 真 吉本 裕代 大桶 華子 藤田 尚正

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	(臨床ゼミ) 1. 吸入鎮静法	吸入鎮静法と医療ガスについて説明できる。実機を用いて吸入鎮静器の使用法および医療用ガスボンベの交換方法などを習得する。 F-3-7)- 、F-1-2)-	照光 真 吉本 裕代 大桶 華子 藤田 尚正
	(診療見学・診療介助)	- 大学病院にて、周術期管理、全身麻酔、精神鎮静法(吸入鎮静法、静脈内鎮静法)、局所麻酔、顎顔面及び口腔領域のペインクリニック、歯科患者への急変対応などの症例を見学(一部診療介助)する。症例ごとに専用のレポート用紙を用いた記録を実施し、ディスカッションを行う。 - 手術室の基本構造について説明できる。 - 感染対策やPPEの使用について実践できる。 F-3-7)- 、F-1-2)- 、F-1-2)-	照光 真 吉本 裕代 大桶 華子 藤田 尚正
	(診療参加型臨床実習：自験)	- 周術期患者のバイタルサインの測定を行い、測定結果の判定および記録の記載と患者への説明ができる。 - 患者に配慮した言動ができる。 F-2-2)- 、F-2-1)- 、F-1-2)-	照光 真 吉本 裕代 大桶 華子 藤田 尚正
	(臨床推論)	- 歯科診療で起こり得る全身的偶発症について、臨床推論の形式で学習する。全身的偶発症の診断、対処法、予防法について説明できる。 - 主要な症候について診断の要点を説明できる。 G-1-1) 、G-2)	照光 真 吉本 裕代 大桶 華子 藤田 尚正
	(臨床フィードバック講義)	問題演習により、必要な知識を整理する。 G-1-1) 、G-2)	照光 真 吉本 裕代 大桶 華子 藤田 尚正

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学校の授業実施方針による

【評価方法】

臨床実習 で課せられた課題とケース数の総合評価(ミニマムリクワイアメントは別途提示)とする。

【教科書】

教科書：「歯科麻酔学」第8版2023年(医歯薬出版)

【備考】

- 大学病院4階の学生控室は飲食厳禁である。ペットボトルの持ち込みも禁ずる。タバコの臭いをさせないこと。
- 麻酔及び処置・手術に不安を抱えている患者さんやご家族関係者にとって、学生見学を許可するというのは大変なことである。これらの方々の歯学部学生教育への十分なご理解なくして当科における臨床実習は成り立たない。また、教官は患者さんのご理解を得るために時間を割いている。学生諸君はこのような背景に思いを致し、感謝の心をもってしっかりと見学してほしい。
- 麻酔導入時と覚醒時は特に静粛にすること。麻酔維持中は教官に質問してもよい。積極的な質問を歓迎する。実習期間以外に質問しても構わないが、その際は教科書と参考書を参照してから講座に来室すること。

【学修の準備】

教科書の該当ページを事前に読み、疑問点を整理しておく。(40分)

毎回、実習後にレポートについての口頭試問を行う。実技の評価を行う。これらに関連した教科書のページを復習して理解する(40分)。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP1. 安全で質の高い歯科医療を提供するために必要な専門知識に基づく問題解決能力と患者ケアのための診療技能とからなる専門的実践能力、および医療・医学研究の発展のために必要な情報・科学技術の活用能力を身につけている。(専門知識に基づいた問題解決能力、患者ケアのための診療技能、情報・科学技術を生かす能力)

DP2. 「総合的に患者・生活者を支える歯科医療」を提供するために必要な高い倫理観、他者を思いやる豊かな人間性および優れたコミュニケーション能力を身につけている。(総合的に患者・生活者をみる姿勢、プロフェッショナリズム、コミュニケーション能力)

DP3. より安全で質の高い歯科医療を実践し社会に適応する医学を創造していくために生涯にわたって自己および他の医療者との研鑽を継続しながら医療者教育と学術・研究活動にも関与できる能力を身につけている。(科学的探究、生涯に渡ってともに学

ぶ姿勢)

DP4. 多職種（保健、医療、福祉、介護）と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を実践できる能力を身につけている。（多職種連携能力）

DP5. 歯科医療の専門家として、経済的な観点・地域特性を捉えた視点・国際的な視野を持ちながら活躍できる能力を身につけている。（社会における医療の役割の理解）

【実務経験】

照光 真（歯科医師）、吉本 裕代（歯科医師）、大桶 華子（歯科医師）、藤田 尚正（歯科医師）

【実務経験を活かした教育内容】

歯科麻酔学は、歯科医療の安心安全を支える学問と臨床体系である。多くの基礎や臨床分野の知識を統合して、問題解決にあたる必要がある。実務経験による理論と実践に基づいた、高い教育効果をもつ歯科麻酔学を臨床を通して学修するための内容となっている。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している